

こころだより



特集 熊本地震での DPAT の活動について



毎年恒例の看護の日のイベントに参加しました。
アルク西岐波店には沢山の方が来られました

熊本にて他医療機関と打ち合わせ。患者さんの転院調整に従事しました。

- * 事務部長に就任して
- * こころ NEWS
- * 第63回こころの医療センター夏祭りの開催
- * 夏バテ予防♪夏の定番レシピ
- * 診療のご案内



特集!

熊本地震での DPAT の活動について

DPATとは、“Disaster Psychiatric Assistance Team”の略で、大規模な自然災害や深刻な事件事故が発生した際に被災地からの要請にもとづき、被災地の精神科医療の支援のために派遣されます。

東日本大震災でのこのころのケアチームの活動の経験や課題をもとに厚労省が活動要領を定め、全国的に統一した運用が開始されました。災害派遣医療についての知識や技能習得のための研修が行われ、当院からは加来副院長、吉松看護師、賀山看護師が研修を修了しており、訓練には角田医師も参加されています。

4月14日21時26分に熊本地方で震度7 マグニチュード6.5の地震が発生しました。翌15日に熊本県より派遣要請を受け山口県DPATとして加来副院長、角田医師、岸本PSW、吉松看護師、賀山看護師が13:50に当院を出発、18:15に現地に入りました。

熊本赤十字病院内に設置されたDPAT活動拠点本部で活動内容を確認後、私達は熊本県立こころの医療センターに向かいました。そこには倒壊の恐れのあるA精神科病院から39名の入院患者さんが避難しておられました。私達は宮崎のDPATチームから業務を引き継ぎ、39名の患者リストを作成し、各医療機関の空床状況や受け入れ条件などを確認しながら転院先の調整を行いました。

4月16日1時25分 震度6強マグニチュード7の地震(本震)がありました。私達は転院調整の作業が一区切りし体を休めようとしている時でした。幸い避難されている方や私達は無事でした。

4月16日は夜間にB精神科病院の入院患者2名の転院に同伴しました。移動車中や転院先で興奮される患者さんもおられました。その後倒壊の恐れのあるC精神科病院の入院患者31名が避難する際の搬送支援を行いました。搬送支援開始が23時を過ぎており、患者さんを搬送し終えたのは午前2時でした。

17日朝に大阪のDPATチームへ引き継ぎを行い、活動拠点本部に業務終了を報告後山口県に戻りました。

今回の熊本地震では迅速に現場に入り活動できたことで、様々な体験をすることが出来、今後の災害活動に向けた経験値を積むことが出来たと思います。今後もいつどのような災害が起こるかわかりません。もちろんこのような災害が起こらないことを祈るばかりですが、今後も災害時には迅速かつ効果的な活動が行えるようにと思っています。



瓦が落ちた熊本城。揺れの大きさを実感しました。



左から、賀山看護師、吉松看護師、角田医師、加来副院長、岸本PSW

事務部長に就任して

4月から事務部長を拝命しました原田一生です。

3月までは県庁の11階にある土木建築部道路建設課で副課長をしていました。県ではこれまで本庁生活が長く、病院勤務は初の経験になります。まず驚いたのが、道路建設課の前任者だった梶川事務部長の後任になったこと。まさか2回続けて同じ人の後任になるとは思いませんでした。病院事務については全く見当もつかずに不安な一方で、少しばかりの安堵感もありました。それは、前職の時も梶川さんの事務処理と書類整理が丁寧だったおかげで、随分と助けられた経験があったからです。

異動内示後ほどなくして、その梶川さんから連絡がありました。「月曜日に引継に来てくれないかな。丸1日かかるけど大丈夫?」「エッ!丸1日ですか?」最初は冗談だと思いましたが、引継は本当に夕方までかかりました。それほど当センターの組織、体制、運営、業務内容は、未経験者にとっては複雑で多様なものでした。梶川さんには、自らの経験を踏まえて何かと御配慮をいただき、とても感謝しています。

当センターに赴任して感じたことは、まず、庭や病棟がきれいで清潔感があること。

そして、職員が皆高い使命感を持ち、患者さん一人一人に対して細かい心配りをされていることです。

病院運営を取り巻く課題はたくさんあると思います。が、より質の高い医療を提供するため、皆さんが日々精進されている様子がひしひしと伝わってきて、私も身が引き締まる思いです。

今年度は、ちょうど、「こころの医療センター」になって10年目、「地方独立行政法人山口県立病院機構」が設立されて5年目になります。

その節目の4月に着任して早々に熊本地震が発生し、当センターからも副院長を中心とした初のDPA T(災害派遣精神医療チーム)を被災地に派遣し、支援活動を行ったところですが、今や有事、平時を問わず、「心のケア」は大変重要な課題になっています。

こうした中、微力ではありますが、これまで諸先輩が築かれてきた実績や評価を汚さぬよう、院長等の御指導の下、職員の皆さんと手を携えて、地域の方々とも連携しながら、よりよい病院運営を進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務部長 はらだ かずお
原田 一生

こころNEWS

当院に若年性認知症支援コーディネーターが配置されました

山口県が今年度の認知症施策の重点事業として、若年性認知症の人への支援を充実させるために、当院に委託事業として「若年性認知症支援コーディネーター」を配置しました。

支援コーディネーターの役割は、地域の支援者への後方支援と資質向上のための業務です。

若年性認知症とは64歳以下で認知症を発症した場合は言いますが、ご本人や配偶者が現役世代であることが多く、症状の発見が遅れたり早期退職を余儀なくされたりして、経済的な問題等が懸念されます。また子どもへの影響も想定されます。今後は、医療・福祉・介護分野、企業等との連携のもと、若年性認知症支援体制を県等と一緒に推進していきます。



第63回こころの医療センター夏祭りの開催

夏祭りの季節がやってきます。今年もこころの医療センター恒例の夏祭りを開催することとなりました。当日は風船釣りやかき氷、盆踊りなど楽しい企画を準備しております。多くの皆様のご来場を心よりお待ちしております。



日 時	平成28年7月28日(木) 18:00~20:00
場 所	山口県立こころの医療センター 体育館
バザー等	かき氷 風船釣り フランクフルト スマートボール 回轉輪投げ ビンゴ大会 他





夏バテ予防♪ 夏の定番レシピ

豚肉の梅チーズ巻き / かぼちゃの冷製スープ



< 1人当たりの材料 >

- かぼちゃの冷製スープ**
- かぼちゃ 50g
 - 玉ねぎ 25g
 - バター 5g
 - 牛乳 150g
 - コンソメ 1g
 - 塩コショウ 適量

< 1人当たりの材料 >

豚肉の梅チーズ巻き

- 豚薄切り肉 (モモかロース) 8枚
- 大葉 4枚
- 練り梅 少々
- プロセスチーズ 40g
- 塩コショウ 少々
- 油 大さじ1
- 色とりどりの野菜 お好みで♪

豚肉の梅チーズ巻き

< 作り方 >

- ①豚肉を少し重なるように広げる。(2枚一組)
- ②①の上に大葉を1枚のせ、練り梅を塗る。その上に縦切りしたチーズをのせ巻く。
- ③フライパンを熱し油をいれ中火にし、豚肉の巻き終わり部分を下にして焼く。
- ④塩コショウで味を整えながら弱火にして2分焼き、完全に火を通す。
- ⑤お皿にお好みの野菜と一緒に盛り付けたら出来上がり。

かぼちゃの冷製スープ

< 作り方 >

- ①かぼちゃはスプーンでワタを取り除き、皮をむいてざく切りにする。玉ねぎはみじん切りで。
- ②鍋にバターを入れかぼちゃと玉ねぎを中火で炒める。
- ③火が通ったら牛乳とコンソメを加え弱～中火にして15分ほど煮込む。
- ④かぼちゃが柔らかくなったら火を止めて冷ます。冷めたらミキサーにかける。
- ⑤塩コショウで味を整えたら、容器に移して冷蔵庫で冷やせば出来上がり。

一言メモ

豚肉は「疲労回復に最適なビタミンB1」の宝庫。ビタミンB1は夏バテの解消など、スタミナの素になる大切な栄養素です。
かぼちゃは緑黄色野菜の代表格で、細胞の酸化を抑えてくれる抗酸化ビタミンであるビタミンA・C・Eがバランスよく入っています。

診療のご案内

外来診療担当医

	初診		再診			
月	(物忘れ、一般) 兼行 浩史	(一般) 角田 武久	兼行 浩史	藤田 実	磯村 信治	宮野 康寛
火	(児童・思春期、一般) 村田 由紀		加来 洋一	青島 真由	三好 俊彦	
水	(児童・思春期) 加来 洋一	(高次脳) 兼行 浩史	兼行 浩史	村田 由紀	新造 竜也	青島 真由
木	(アルコール依存、一般) 藤田 実	(一般) 新造 竜也	兼行 浩史	加来 洋一	角田 武久	宮野 康寛
金	(物忘れ、一般) 宮野 康寛	(児童・思春期) 青島 真由	加来 洋一	藤田 実		

初診・再診とも予約制となっております。予めお電話でご予約されてご来院ください。
外来直通電話：0836-58-2327

交通のご案内



お車 / 山口宇部道路「宇部東IC」より丸尾方面へ約5分
電車 / JR宇部線「丸尾駅」より徒歩約15分
バス / 宇部市営バス「東岐波中学校前」より徒歩約10分

地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立こころの医療センター

〒755-0241 山口県宇部市東岐波 4004-2
TEL: 0836-58-2370 (代表)
: 0836-58-2327 (外来直通)
FAX: 0836-58-6503



こころの医療センター

検索

<http://www.y-kokoro.jp/>